

## V62b 鹿児島大学光・赤外線望遠鏡計画の現状：可視光観測スタート

藤井 高宏 (国立天文台)、面高 俊宏、西尾 正則、河南 勝、廣田 朋也、前田利久、長谷川 涉、江副 和彦、渡部 裕貴 (鹿児島大理)、田中 培生 (東大理)、唐牛 宏、笹尾 哲夫、小林 秀行 (国立天文台)、清水 実 (ぐんま天文台)、奥平 敦也 (鹿児島国際大)

鹿児島大学理学部は、国立天文台 VERA 計画と協力して晩期型星 (AGB 星) の脈動現象、質量放出現象を解明するため、九州最大となる口径 1m の光・赤外線望遠鏡の開発を進めている。望遠鏡本体 (西村製作所製) は、薩摩半島の付け根にあたる鹿児島県入来町 (鹿児島大学入来牧場内) に、2001 年 8 月に設置され無事ファーストライトを迎えることができた (2001 年秋期年会)。

搭載される観測装置は、可視 CCD カメラ・近赤外カメラの 2 種類で、銀河系内のいわゆる可視ミラから、ダストでおおわれた OH/IR 星までを含むさまざまな変光周期をもつ AGB 変光星の探査・変光モニター観測を行い、VERA とも連係をはかりながらミラ型変光星の周期光度関係や AGB 星の脈動モードの検証を目指している。

ファーストライト以降、光学系調整・駆動試験を順調に終え 2002 年 1 月からは、可視 CCD カメラ (BITRAN 製 BT-214E、フィルターは  $U$ ,  $B$ ,  $V$ ,  $Rc$ ,  $Ic$  の 5 バンド) によって、水メーザーもしくは一酸化珪素メーザーの付随する AGB 星の測光観測・変光モニター観測を開始した。本講演では、可視 CCD カメラによる測光性能、当サイトの観測条件、今後の観測計画について報告する。特に、シーイングについてはおおむね良好であり、星像が 0.8 秒角の観測夜の存在も確認できた。